

わがまちまごめ

発行地域力推進馬込地区委員会
事務局 馬込特別出張所
〒143-0027 大田区中馬込3-25-5
☎(3774)330100
ホームページアドレス(大田区役所大森地域)
<http://www.city.ota.tokyo.jp/mori/index.html>

馬込地区

国際交流座談会

を実施しました!

令和7年11月11日(火)馬込特別出張所にて国際交流座談会を実施しました。当日は国際都市おた大使(以下「大使」とする)から中国籍の方とネパール国籍の方、また馬込についてよく知る地域情報紙わがまちまごめ編集委員の方々(以下「編集委員」とする)にもご参加いただきました。大使からは後日、ブラジル国籍の方にもご協力いただきました。

●企画目的

本企画の目的として、多文化共生の



推進に向けた区民意識の醸成、外国人区民が参加しやすい地域づくりの推進および地域とのつながりを深めることを掲げています。これらの目的のために大田区にある18特別出張所がそれぞれの企画を行うのが「18色の国際都市事業」です。

●企画内容について

令和7年度の馬込地区における企画として「馬込地区国際交流座談会」を開催しました。普段から馬込についての様々な情報を発信している編集委員と外国人区民の目線に立って考える大使とで、文化の違いや暮らしやすいまちづくりについて話し合いました。

座談会ではまず大使に様々なテーマについてお話しいただき、比較する形で編集委員に馬込の暮らしや文化についてお話しいただきました。本企画においては「外国人と日本人が互いに住みよいまちづくりのためにどのようなことができるか」をゴールに定めました。

●座談会の様子

座談会ではそれぞれの食文化の話から始まり、マナーや生活の中での困りごとなど様々なテーマについて話し合

いました。また、座談会の中で馬込のお菓子として御菓子司わたなべの“馬込三寸人参饅頭”や“馬込の月”などを紹介しました。

座談会終盤は「外国人も日本人も住みよいまちづくりのためにどのようなことができるか」というテーマでも大変盛り上がり、地域のイベントへの外国人の参加や多言語のサポートを促進していくことが重要だと意見が上がりました。



ではここから、座談会の具体的な内容を紹介してまいります。

食文化について

●ネパールの食文化

今回ネパールについて紹介して下さるのは、大使のサブコタ スディプさんです。

ネパールはカレー文化がとても強く、毎日3食カレーという家庭も多いようです。ネパールで一般的に毎日食べるような料理は「ダルバート・タルカリ」という料理です。「ダル」は豆のスープ、「バート」は米、「タルカリ」は野菜の煮込み料理やおかずといった意味です。そしてこのダルバート・タルカリ、豆のスープも添えられているおかずもすべてカレー味なのだ

そうです。スディプさんは「もしネパールで寿司が生まれていたら、カレー味になっていたかもしれない」と笑っていました。

カレーといえばインド、そしてナン!と思いきふかべる人も多いですが、ネパールのカレーはナンではなく、お米で食べます。お米と言っても日本米とは全く異なり、もっとパラパラで細長く、少しパサパサしているお米を食べています。日本で一般的に想像される「外国の米」のイメージですね。編集委員は「日本でも戦後は外米(外国産の米のこと)を食べたものです。」と昔を振り返っていました。またネパールにはこのお米とホットミルクを混ぜて食べるキールというデザートもあります。

そしてネパールの食事では基本的に手を使います。スディプさん曰く手で食べるのが美味しく感じるのだそうです。

ネパールの食文化において米を主食としている点では日本と共通していますが、料理や食べ方は全く別の進化を遂げていますね。



●中国の食文化

中国について紹介してください。大抵の譚振華（たん しんか）さんです。

中華料理は日本でもかなり親しまれており、皆さんも普段口にすることがあると思います。その中でもいくつかの料理について譚さんが教えてくださいました。

まず中華料理の中でも大変有名な餃子ですが、中国では餃子といえば水餃子なんです！食べきれない時に、後日焼き餃子にして食べるのが一般的です。

中国で人気の料理としては火鍋も有名です。譚さんのお子さんはこれが一番美味しいと言っています。最近では日本でも火鍋のお店を見かけるようになってきましたが、本場の味も是非一度味わってみたいですね。写真の真ん中部分、鍋についている筒には、木炭を入れて鍋を中央から加熱しています。



また中国ではここ数年、ザリガニを甘辛く炒めて煮た「麻辣小龍蝦（マールシーヤオロンシア）」がとても人気だそう。お店で食べると職人が殻を剥いてくれることもあり、ザリガニの中の身を食べます。この料理は人気すぎて、大量に食べて救急搬送されるケースもあったようです！



中国の伝統的な食べ物のうち、中秋節に食べる月餅はとて有名で日本でもよく売られています。日本で販売されているものは、砂糖、ピーナッツ、レーズン、花びらなど甘いものが入っておりお菓子のような扱いです。しかし中国では地域によって中身や形が大きく異なり、肉や卵などおかず系のものもあります。

中国は国土が広いので、それぞれの地域によって食文化が異なります。例えば、中国の南地域では甘いもの、四川省では辛いもの、山西省では酸っぱいものと味付けの好みも異なります。譚さんの出身地、山西省は黒酢がとて有名なので、読者の皆様も是非一度ご賞味あれ！

また中国では基本的に生ものを食べる文化がありません。譚さんが親戚としゃぶしゃぶ屋さんに行った時に刺身

があったので注文しましたが、親戚の人はその刺身をしゃぶしゃぶの鍋へ入れようとしたのだとか。その食べ方はびっくりしましたが、それはそれで美味しそうですね。

しかし最近の中国では日本の寿司チェーン店がとて人気なのです。他の日本食レストランに比べると安く、本場に近い味わいが食べられるからだと思います。確かにお手頃価格で日本でも親しまれているので、日本食への入口としては丁度良いかもしれませんね。寿司をきっかけに生食のおいしさが伝わり、中国の食文化に新たなページが刻まれるかもしれません。そう考えると、これは互いの食文化の邂逅とも言えますね。

●ブラジルの食文化

ブラジルについて紹介してください。大抵のルナルディ マツシヤド マリア フェルナンダさんです。

ブラジルではとて豆を食べることで、メインもサイドも豆料理なんてこともよくあります。

そんな豆料理の中でも代表的なものは、Feijoada（フェジョアダ）という料理です。豆と豚肉などを煮込んだ料理で、毎週日曜日や祝日の昼食に家



族と食べています。少し油っぽく、塩とにんにくで味付けされており、とてお腹にたまります。（写真左側黒色の部分）

フェジョアダは休みの日の昼食など決まったタイミングで食べる豆料理ですが、Feijao（フェイジョン）という毎日食べる豆料理もあります。こちらはあっさりとした味付けでとても食べやすいようです。毎日食べる基本の料理のため、日本でいうみそ汁のような立ち位置のこと。

そして豆料理ではないですが、Farofa（ファロファ）という代表的な食べ物もあります。キャッサバ芋の粉を油とバターなどで炒めており、カリカリとした食感が特徴的でサイドディッシュとしてよく食べられます。こちらはかなり一般的な食事で、毎日食べる親しみ深い食事だそうです。（写真下部ご飯と豆の上にかけてあるのがファロファ）この写真もよく見るとご飯に豆がのっています。もう豆が毎日の食事に欠かせない物になっていることがわかりますね。



私もこれを機にフェジョアダとファロファを食べてみましたが、どちら

もとても美味しかったのでぜひ皆様も挑戦してみてください！

ここまで紹介してきたブラジル料理、日本とはかなり異なる特色を持っています。フェルナンダさんは日本料理も大好きだそう。フェルナンダさんが日本で納豆に挑戦した際には、匂いが少し気になりましたが美味しく食べることができたそうです。納豆は外国人にとってハードルが高い食べ物とよく言われますが、今までの豆料理の経験が背中を押してくれたのでしょうか。豆繋がりで言うと豆腐や大豆食品はあまり食べたことがないのでしたので、ぜひ試してみたいですね！

マナーについて

ここまで様々な国の食文化を聞いてきました。次は日本と出身地のマナーの違いについてお聞きしました。

ステイプさんは、日本はこれまで訪れたどの国よりもマナーが良いと感じたそうです。日本人は気配りが出来ており、公共の場では静かで穏やかな印象があります。ネパールでは話し声やクラクションなどとても賑やかなので、日本の電車やバスでは会話が少なく驚いたそう。このような印象から、日本のイベント（祭りなど）は事故が少なく安全なイメージがあるそうです。一方で、ネパールと共通するマナーもあります。家の中に入るときは靴を脱ぐこと、年上の方を敬い丁寧な言葉で会話することなどです。

このようなマナーは中国にもあります。中国では日本と同じくお年寄りを敬う文化があるのですが、その実態は日本より



もかなり厳格で、電車やバスなどでお年寄りに席を譲らないと周りから怒られてしまうほどです。逆に日本と違うマナーとして、中国では基本的にカジュアルな服装が好まれている、面接や結婚式などもスーツは少数です。正式な場でも服装そのものではなく清潔感を重視しているのだそう。また、これは有名なマナーですが、中国では食事をいただいた時、出された料理を少し残します。万が一食べきってしまうとまた料理を追加されてしまう場合もあります。食事のマナーではフェルナンダさんも驚いたことがあります。ブラジルでは食事中に音をたてないことがマナーなの



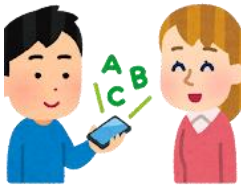
りしたそうです。また、フェルナンダさんは外国人として日本人からの視線を感じる時があり、それがとても不安に感じるのだそう。ブラジルでは知らない人を見つめると喧嘩になる場合もあり、とても危険な行為とされています。しかし日本では外国人は目立ちやすいため人に見られることも多く、どうしても不安になってしまふのです。逆に、ブラジルでは表現として普通に使う舌打ちが、日本ではマナーが悪いと言われているので気を付けなければならぬとのこと。

日本と似ているマナーもあれば、全く異なるマナーもありましたね。そしてそれぞれのマナーの背景にはその国の文化や歴史が詰まっています。外国人区民に日本のマナーを知ってもらうことはもちろん大事ですが、それ以上にそれぞれの出身地によってマナーが異なるということを理解することが重要です。

今後のまちづくり

最後に、今後のまちづくりの参考になるよう、日本に来て困ったことをお聞きしました。

過去に最も大きな問題であった言語の壁はスマートフォンおよび翻訳アプリ等の普及により大きく改善されましたが、インターネットで得られない情報の取得や人との関わり合いがより難しくなっているのではないのでしょうか。



●言語の壁の問題

スディブさんと譚さんは日本に来たのが十数年前なのでスマートフォンがまだ普及しておらず、言語の壁を感じることも多かったそう。日本語は文字の種類が多様であることやインターネット上の複雑な情報から、かなり難しい言語と言われています。またお二人は仕事で来日したため、敬語表現も身につけなければならず、覚えるのに大変苦労したそうです。それに加え、日本は自国と比べて電車の路線図が複雑なためちよつとした移動にも苦労したそう。ただ、先述の通りこういった課題はスマートフォン



の普及により、今ではあまり感じられないようです。



●近年の課題とSNS活用について

では言語の問題が緩和された今の課題は一体何でしょうか。1年前に来日したフェルナンダさんにお聞きしました。ごみの捨て方は地域によって異なり、調べても出てこないことがあるので難しかった、もっと身近なところで情報周知してほしい、と語ります。もちろん区でも周知はしていますが、こういった身近な問題を解決する手段として、地域の中での繋がりが鍵になるのではないかと思えます。わからないことをすぐに聞けるような地域の関係性をつくることで、生活の中の困りごとを解決しやすくなります。スマートフォンが普及した今だからこそ、ホームページやSNSの活用も良いか

もしれません。同時に多言語サポートを増やしていくことで、外国人区民も町会や地域の方々と繋がる環境を整えることが重要ですね。

●町会からの情報発信について

しかし、中には既にそういった発信をしている町会さんいらっしゃると思いますが、ではなぜ外国人区民にはあまり届いていないのでしょうか。フェルナンダさんはそもそも町会という存在について知らなかったと言います。町会のような近隣住民の集まりは、国や地域によって大きく異なります。フェルナンダさんの出身地ではマンションのグループチャットがあり、様々な情報もそこで共有されていたそうです。つまり、まずは外国人区民に町会の存在自体を知ってもらう必要があるということですね。現在は馬込に引越してきた方には出張所から町会のご案内をお渡ししていますが、さらに多言語に対応したご案内をお渡しするなど一工夫が必要なのかもしれません。

●実は知りたい地域の行事

譚さんとスディブさんからはイベントへの参加がその地域のことを知る機会にもなるため、まずは地域のイベントに参加してほしいと意見が出ました。外国人区民にイベントを知ってもらうために、やさしい日本語や多言語でのチラシも作成することが望ましいですね。今は無料の翻訳アプリでも昔と比べてかなり正確に翻訳してくれますので、一度使ってみてはいかがでしょう。また、



併せて検索しやすいインターネットでも多言語で周知するとより効果があるかもしれません。

●外国人のためになる防災訓練

外国人の方が参加しやすいイベントと言われると難しく思えますよね。大使曰く、来日したばかりの外国人は防災の知識が少ないので、防災訓練が大変になるそうです。馬込地区では様々な防災訓練が行われていますので、まずはそこに外国人区民を呼び込んでみてはいかがでしょう。



馬込地域の魅力発信

地域の情報や町会について知ってもらうために、馬込地区でも様々な取り組みが行われています。その一つとして、馬込地区自治会連合会では「ブラマゴメ」というインスタグラムを開設しています(二次元バーコードから要チェック!)。馬込地域の飲食店や風景が週2回投稿され、馬込の魅力が伝わるような内容になっていま

す。地域の魅力を感じることでその地域の活動に参加する一番の近道ですよ!

また投稿文書は必ず英語での表記もあるのですが、外国人にも伝わりやすいのではないのでしょうか。



編集後記

私自身こういった企画をするのは初めてで慣れない部分もかなりありましたが、ご参加いただいた皆様や先輩職員のサポートもあり、無事に企画をやり遂げることができました。また今回の企画を通して互いの文化や価値観の違い等を知ること

で、住みよいまちづくりにもつながるきっかけを作ることができたと考えております。私も企画する中で外国人区民と日本人区民との感覚の違いに大変驚かされました。当たり前のことですが、自分にとっての普通は他人にとつての普通と違うというのを再認識いたしました。様々な文化、様々な価値観の人々が互いに尊重して暮らす社会の実現に向けて新たな一歩を踏み出すことができました。

向けた話に早速花が咲いていました。様々な方にご協力いただき、今回のような企画を開催することができました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

(馬込特別出張所・担当職員)



座談会ではそれぞれの国の人との交わり方やマナーを聞くことができ、大変勉強になりました。地域の人の交流が大事だと実感しているので、新しく来日した仲間達に日本の文化を伝えてお互い快適に過ごせるよう支援していきたいと思いました。

(スディプさん)



私は2010年頃から馬込に住み始めました。馬込文士村の歴史を知り、地域の魅力を感じるようになりました。小学校のPTA活動で参加したお祭りや防災訓練を通じて、地域とのつながりができて、馬込に来てよかったと感じています。

(譚さん)



春からは、念願だったアニメ関係の仕事に就くことになりました。これからは座談会の経験を活かして、アニメ文化や地域のつながりなどの日本の素晴らし



しいところを、ブラジルや世界に発信していきたいと思えます。

(フェルナンダさん)

今回の座談会は、食文化を中心に話が進み、大変楽しいひとときとなりました。各国料理の美味しいものが次から次へと話題となって盛り上がっているうちに時間が過ぎてしまいました。

「わがまちまごめ」紙面にはこれまでも様々な大使の方々に登場していただきましたが、座談会形式でお話を伺ったのは初めてで、たいそう実りのある体験でした。「国際交流」という言葉の意味を掘り下げて考える絶好の機会となりました。企画実現にご苦労いただいた、馬込特別出張所の担当職員の皆様、特に一年目の新人であるにもかかわらず、中心になって企画を進めてくださった担当職員の方に心よりの感謝を申し上げます。

(地域情報紙編集長)

地方の人と話していても東京との違いに驚かされることがありますが、外国の方とはもっと大きな違いがありました。そして知識として知っていることでも、ご本人から直接お聞きすると、ずいぶん違っていました。

特にマナーの違いの中で、「結婚式には普段着で参加する。」ということを知った時は、欧米や日本など正装文化を経験している者からすると「えっ。なんで?」と思えました。本文をお読みいただくとこのほかにも「へえー、そうなんだ。」と思うことがいくつもあったのではないかと思います。たった3時間でこうなんですから、言ったらびつくりの山ができるのではないのでしょうか。大きな収穫でした。

数時間であっても、日本以外の国の方とテーマを持って話すと、服装や冠婚葬祭に対する考え方、食べ物や食べ方、習慣などの大きな違いに驚かされました。その国の文化や歴史が大きく関係していることと思いますが、今回の座談会に参加できたことが、他国やその国の人々のことを知るうえでとても大切なことであり、旅行などで行くときには、なるべく知識として持っていたほうがいいのではないかと思うようになりました。

(地域情報紙副編集長)

国籍の異なる大使の方々は初対面でしたが、食文化の話で大いに盛り上がりました。日常生活で必要不可欠ですし、だれでも美味しいものは大好きですから。

そのうちに打ち解けて家族のことや困りごとなども話せるようになるのですね。まずはお互いを知ることから交流は始まります。

縁あって同じ地域に暮らす外国の方には、その方の興味に応じて日本の良さを伝えていきたいと思えました。国の外交が大事なのは言うまでもありませんが、地域の一区民の小さな交流の積み重ねは大きな友好関係に繋がるのではないのでしょうか。

(地域情報紙副編集長)



外国人区民向けの
相談窓口

本記事をお読みいただき、「そういえば私も困っている外国人を見かけたことがあるなあ」と思った方へ。外国人区民の方向けの相談窓口をご紹介します。おた国際交流センター(愛称・Minto Ota)では、外国人区民の日常生活での困りごとについて、相談先や手続きの方法を案内しています。もちろん相談は無料で、ご予約も不要です。(※一部専門的な内容については事前予約制)また、大田区役所への提出書類の翻訳も有料で行っています。お困りの方を見かけた際はぜひ相談窓口に繋いであげてください。

◎おた国際交流センター 多言語相談窓口 (TEL 6424・4924)

●所在地

大田区蒲田4-16-8 2階

おた国際交流センター (Minto Ota)

※京急蒲田駅西口より徒歩2分、JR

京浜東北線蒲田駅東口より徒歩8分

●相談できる時間

月曜日～金曜日 10時～17時

また、Minto Ota は公式 Facebook (フェイスブック) も開設しています。

施設情報やイベントについて発信されていますので、こちらの二次元バーコードからフォローしてみたいかがでしようか。そして国際交流・多文化共生についての情報を周りに共有する“Minto フレンズ”にぜひ仲間入りしてください!

